



第5回 自転車安全教育検討部会

2025. 12. 10 (水)
10:00-11:30

建設局自転車政策推進室

本日の流れ



1. 第4回部会で出たご意見
2. 自転車安全教育実施事業者からの意見
3. 京都市自転車安全教育プログラムについて（別紙）



第4回部会で出たご意見（修正青字部分）

ご意見	対応
<ul style="list-style-type: none">・ステージ1や2に、道路に出て走り出す前のトレーニングのような観点を入れるのもいいのでは。最初は安全なところ、次は家の前の道路、次は小学校区内、次は中学校と段階的に行動範囲が広がっていくイメージも要素としてあっていいのでは・小学校から中学校、高校と行動範囲が広がる際にはより慎重な運転をしてほしいということを事故実態と繋がるエッセンスとして入れておくべきでは	<ul style="list-style-type: none">・行動範囲の広がりについてループリック内ではなく、P. 10でイメージを提示
<ul style="list-style-type: none">・Dのステージ8・9・10と白黒の資料のD知識の部分に記載のある「交通ルールを完全に理解し」という言葉。認知の話で何も言われずとも前提を疑うとか体に染み付いていることが、最も高次ではないかと言われていることを踏まえると、完全に理解しという文言は体得と表現してもいいのではないか・完全に理解するのはなかなか難しいが、表現としては、意識せずともできるという表現になるのでは・完全に理解という表現はC-1のステージ8・9にもある。ここは完全にではなく、十分に理解の表現でもいいような気がする	<ul style="list-style-type: none">・Dのステージ8・9・10「完全に理解し」を「意識せずとも実践しており」に修正・C-1のステージ8・9「完全に」を「十分に」修正
<ul style="list-style-type: none">・小学生がながらスマホをしているのを目撃した。今はA-2のステージ5にながらスマホをしないと記載。ヘルメットを着用するとか、ながらスマホをしないという観点が小学生には必要ないという風に見えないか懸念がある。ステージ2から運転に集中する等の観点を加えてもいいのでは・運転中は集中して運転以外のことは基本的にしないということを最初の段階から（理解に至らないとしても）要素としてしっかり含めていくべき	<ul style="list-style-type: none">・未就学児はひとつのことに集中し続けることが難しいと考え、ステージ3に「運転に集中し」の言葉を追加



第4回部会でご意見（修正青字部分）

ご意見	対応
<ul style="list-style-type: none">・事故実態とルール等のところで、ライトを点灯する話はルール等に含まれていないので、自転車装備関係の話としてまとめ、自転車になぜ安全装備が付いているのかをヘルメット着用と同じレベルで記載するのもありかと思う・ルール等のところに必要な装備というキーワードを入れた方がいい・ルール等の中で、装備関係とルール関係の内容に分けた方がいいのでは	<ul style="list-style-type: none">・装備についてループリック内に含めるのではなく、前段に別ページを設ける →P. 9（3）自転車に乗る前に（自転車の構造と装備）
<ul style="list-style-type: none">・チェックリストの内容はすでにループリック案の中に組み込まれているので、チェックリストを載せる必要があるのか・A-2やB-1のチェックリストの内容も知識ではあるので、Dの後ろに全部まとめて記載してもいいかもしれない	<ul style="list-style-type: none">・チェックリストの内容を確認し、重複部分を削除。危険行為16項目は別ページとする
<ul style="list-style-type: none">・今のループリックの立て付けだとHOW（手法）の部分が抜けてしまうので、ルールをどうやって習得していくかというHOWをイメージできるような形で記載した方がいいのでは・授業づくり、どういう事例を選ぶか、どういう風にグループで学ばせるかというところは、ここ（ループリック内）に書かなくてもいい面ではある	<ul style="list-style-type: none">・HOW（手法）については本プログラム内でカバーしきれないため、次期総合計画の自転車安全教育実施の中で引き続き検討したい。また、事例集内の講師コメントを教えるうえでのヒントとしてもらいたい

自転車安全教育実施事業者からの意見（修正赤字部分）



ご意見	対応
(A-2) ステージ9・10 二輪以外にも三輪、四輪の電動普通自転車が出てきているため、その選択肢があるということをお知らせする意味も含めて文章中に追加してはどうか	「状態に合った自転車の選択ができる（二輪以外にも三輪、四輪自転車など）」を追加
(A-3) ステージ2 自転車教室で、歩道は「すぐに止まれるスピードで」と必ず言うようにしている。スキップと表現してしまうと速いイメージを持つ人もいるかもしれないため「すぐに止まれる」スピードの表現にしてほしい	「スキップするくらいの」を「すぐに止まれる」に修正
(B-2) ステージ3・4 歩道通行時の走行位置は車道寄りなので「車道寄りを」を追加するべき	「車道寄りを」を追加
(C-2) ステージ1・2 ステージ1からブレーキを握り、ブレーキでの減速を想定されているが、ほんとうに最初の段階はまずハンドルを握り、方法はおそらく足だと思うが、危険だと思ったらとにかく止まれるのが第一であると考えており、現場ではそのように教えている。最も低い段階のステージ1でブレーキによる操作を求めるのは現実と合わないため、ステージ1はまずハンドルを握れる、そして方法は問わず減速、停止できる程度までかと思う	ステージ1の文章を、必ずしもブレーキの操作を伴わないものに修正。元々ステージ1に入っていた文章をステージ2へ移動
学ぶ側が理解を深めていくため教える側はどのように教えたらいいのか、着眼点、手法の部分を詳しく載せてほしかった	次期総合計画の自転車安全教育の中で引き続き検討したい

京都市自転車安全教育プログラムの位置付け



5

市政の基本方針

京都基本構想(仮称)(案)(R8年~R32年)

交通政策マスタープラン

「歩くまち・京都」総合交通戦略2021

京都市自転車総合計画 (現在、次期計画策定中)

- ・本市の分野別計画であり、市町村自転車活用推進計画でもある
- ・計画に自転車安全教育・啓発の推進が位置づけられている

自転車の交通安全教育ガイドライン (警察庁で策定中)

- ・国(警察庁)が定める、自転車の交通安全教育におけるライフステージごとの目標と教育内容が記載されているもの(12月中に公表される予定)

京都市自転車安全教育プログラム

次期計画において
取り組む
新たな自転車安全教育に
おける活用

行動評価指標(ルーブリック)
自転車安全教育における
ポイントの共通認識を持つためのツール

ガイドラインと同じ目標を
掲げている
ガイドラインに記載の
各種ルール等を
習得した場合、どのような
姿であるかを示す

現プログラムと改定後のプログラム



現プログラム

1 はじめに

- (1)自転車利用を取り巻く情勢
- (2)京都市の自転車政策

2 背景・目的

- (1)背景
- (2)目的

3 教育内容

- (1)自転車の基本的なルール
- (2)ライフステージ別の自転車安全教育の主なポイント一覧
- (3)ライフステージ別の自転車安全教室一覧
- (4)ライフステージ別の自転車安全教育のポイント
- (5)今後の予定

4 取組事例

- (1)京都市が実施している自転車安全教室
- (2)京都市以外が実施している自転車安全教室
- (3)各種啓発等の取組

5 参考



改定後プログラム

1 はじめに

- (1)本プログラムの目指すもの
- (2)京都市のまちの特性
- (3)本市の自転車事故の状況
- (4)自転車を取り巻く全国的な情勢(青切符の導入)

2 本プログラム改定の目的

3 教育内容

- (1)自転車の基本的なルール(自転車安全利用五則)
- (2)自転車保険加入義務
- (3)自転車に乗る前に(自転車の構造と装備)
- (4)ライフステージ別の自転車安全教育における行動評価指標(ループリック)

- ★ 行動評価指標(ループリック)の見方・使い方
各年代ごとのループリック

自転車安全教育取組事例集